

吉野復興大臣のふくしま大交流フェスタぶら下がり会見録  
(平成29年12月23日(土) 16:55~17:00 於) 東京国際フォーラム)

1. 発言要旨

本日は福島県主催の二つのイベントに参加させていただきました。

一つは、「ふくしま大交流フェスタ」で、浜中会津の出展ブースを視察させていただきました。福島ならではのグルメや伝統的工芸品などの魅力を再確認しつつ、出展者の皆様方から、それぞれの取組についてお話を伺いました。

もう一つは、「ふくしま避難者交流会」です。昨年も出席させていただきましたが、ここでは避難されている方々、一人一人のお声をじっくりと伺わせていただきました。震災から6年9か月たった今でも、さまざまな御苦労や悩み事を抱えていらっしゃることを改めて感じたわけであります。頂いた御意見はしっかりと受け止め、復興庁としても、被災者の心に寄り添いながら、一層きめ細かい支援をしていきたいと考えております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 交流会の方なんですけれども、具体的にどんな会話というか、どんな要望が寄せられて、それに対してどうお答えしたか、具体的な内容を差支えない範囲でお願いします。

(答) 各町村ごとでありまして、それぞれの町で要望事項が違うなどという感じがしました。大熊、双葉のように、これから帰れる町。浪江、富岡のように、避難指示が解除されたけれども、なかなか生活が困難な地域。広野、楢葉のように、もう8割が戻って、今日ここに来られた方々は東京にいる方、この近辺にいる方々ですが、それぞれの方々の悩みというものを伺ってきたところです。

(問) 今日は会場にもいらっしゃると思うんですけれども、改めて、いわゆる自主避難者に対する、復興庁として、大臣としてでもいいのですけれども、どのように支援はあるべきかということを一言お願いします。

(答) これは特にハードからソフトへ心のケア、心の復興、ここが、私が大臣になってから重点的に取り組んでいるところです。そういう意味では、県外に避難されている方々ですので、私の心のケア、心の復興の方向は間違いのないものだなというところは強く感じたところです。

(問) 自主避難者の方からすると、家賃など、いわゆる援助の内容がいろいろ減っていくということに対しての危惧がありますが。

(答) これはステージ、ステージで、初期のステージの支援の仕方と

今のステージでの支援の仕方は、これは変わってくるのは当然だと思います。その辺のソフトランディングというところがなかなか難しいところだという感じですか。

(問) 昨日の会見でも多分質問が出たと思うんですが、先日、12日でしたか、大臣室で自主避難の方とお会いになったときに、私が聞いているのはかなり厳しい表現で、そろそろ自立してしかるべきだというような趣旨の発言があったように聞いております。

ただ、先ほどのお話を伺っていると、寄り添うというお言葉が一方であって、一方で、そろそろ自立しろというお言葉もあると。そうすると、大臣の本心といいますか、本音はそろそろ自立しろという部分なんじゃないかなと思うんですけれども、そこは、いかがでしょうか。

(答) 12日の面会は、私の親戚の方が、私に大臣としてお祝いをしたいというような趣旨で来られたものですから。

(問) もともとですか。

(答) もともとは。ですから、そこでのお話というものは、やはりノーコメントにさせていただきたいと思います。正式なそういう自主避難をしている方々が来るということ、私は知りませんでしたので、そこでお話ししたことについてはノーコメントにさせていただきたい。それは昨日の会見でもお話ししたところです。

(問) 昨日の会見では、否定はなさらないという表現でお答えになったと思いますけれども。

(答) いや、お会いしたことは否定できないでしょう。

(問) 会ったことはということなんですね。

(答) お会いしたことは間違いないんだから。

(問) 自主避難者に対して、自立しろということをおっしゃったかどうかというのは。

(答) その辺のところはノーコメントです。お会いしたということは否定しません。あとは一切ノーコメントにさせていただきます。

(以 上)